挑戦

和歌山箕島球友会

戦力分析・上

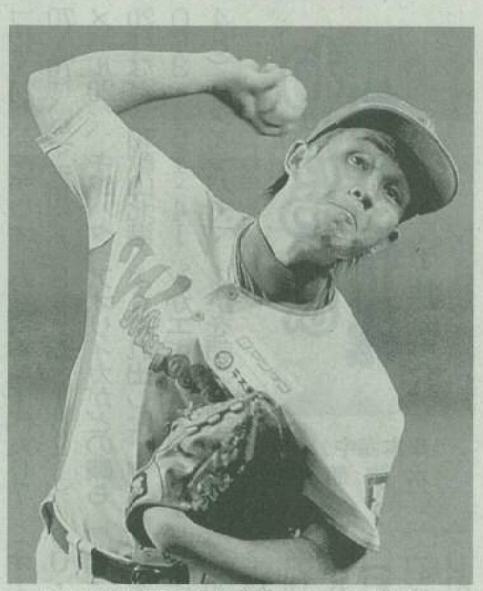
今季入団3投手が鍵

軸は本格派右腕

和歌山箕島球友会は先月西武プリンスドーム（埼玉県所沢市）であった第40回全日本クラブ野球選手権大会を制し、30日に京セラドーム大阪（大阪市）で開幕する第41回社会人野球日本選手権大会（毎日新聞社など主催）に、2年ぶり4度目の出場を決めた。日本選手権初勝利を目指すクラブ王者の投手陣と攻撃面をそれぞれ紹介する。【倉沢仁志】

投手陣の核となるのが、今季入団した寺岡大輝投手(22)＝大阪産業大。最速145キロの直球を軸に、カットボール、スライダー、フォーク、チェンジアップを操る本格派右腕だ。「今までストライクを取れないと思ったことはない」と言い切るほどの制球力が、大きな強みだ。

クラブ選手権では3試合に登板し、準々決勝の全足利クラブ（関東地区代表）戦を完封。決勝の茨城ゴールデンゴールズ（同）戦も完投した。21回3分の2を投げて自責点2、16奪三振、3四死球の活躍で、大会最高殊勲選手に輝いた。西川忠宏監督(54)は「チェンジアップを習得して投球に幅が出た。試合を作ってくれる」と信頼を寄せる。



投手陣の核として期待される寺岡大輝投手＝埼玉県所沢市の西武プリンスドームで9月7日、猪飼健史撮影

バッテリーを組む水田信一郎捕手(27)は「企業チームにも十分通用する。本人がエースの自覚を持って周りを見る余裕が出てくれば大丈夫」とみる。寺岡投手は「9月の大会でバックを守る先輩たちの期待を感じた。日本選手権でもエースとしての役割を果たしたい」と気合十分だ。

同じく今季入団した桐原勇人投手(23)＝成美大＝と、北面成也投手(23)＝関西国際大＝の両右腕も、これまでの登板機会で好投を見せており、欠かせない戦力だ。

桐原投手は、5月の都市対抗野球大会近畿2次予選で、古豪・新日鉄住金広畑を完封。「登板機会があれば、ピンチをしのいで好機につなげる投球をしたい」と調整に余念がない。クラブ選手権準決勝の四回から登板した北面投手は、その後の6回を無失点に抑えてサヨナラ勝ちを呼び込んだ。「どんな状況でも準備を怠らないようにしたい」と意気込んでいる。